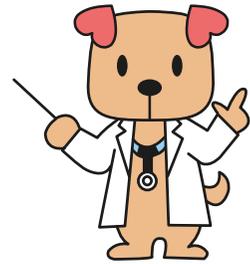


こどもけい相談室



小児の肺炎球菌感染症

千葉県小児科医会 石和田 文栄 医師

Q1 肺炎球菌とは？

肺炎球菌は小児の細菌性髄膜炎、敗血症などの侵襲性細菌感染症の原因菌として最も多い細菌です。肺炎球菌は病原性が強く、症状の進行が急激で重症化しやすいので要注意です。特に2歳以下の子どもは肺炎球菌に対する免疫が弱く、命にかかわることがあります。集団保育の子どもは、かかりやすいとの報告もあります。

肺炎球菌は、肺炎/気管支炎、急性中耳炎、副鼻腔炎などの原因としても重要です。乳幼児の細菌性肺炎の二大原因菌は、肺炎球菌とインフルエンザ菌で、ウイルス性肺炎に合併し重症化します。肺炎球菌性の中耳炎は、難治化することも知られています。その他、蜂窩織炎、関節炎、骨髄炎、心内膜炎などの原因になることもあります。

Q2 肺炎球菌はどこにいるの？

肺炎球菌はいたるところにおり、多くの子どもの鼻やのどに常在しています。保菌しているだけでは悪さはしませんが、風邪などで免疫が落ちている時に感染をおこしたり、うつしうつされやすくなったりします。

Q3 肺炎球菌の診断は？

基本的には培養(培地で発育させて菌をみつける)検査を行います。結果判明には数日かかります。培養前に抗菌薬が投与されていると、培地に菌が生えてこず診断が困難な

ことがあります。補助診断法として迅速キットもあります。

Q4 肺炎球菌感染の治療は？

ペニシリン系の抗菌薬が有効ですが、耐性菌もいます。侵襲性肺炎球菌感染症に対して内服抗菌薬はほぼ無効で、抗菌薬点滴による治療が必要です。

Q5 予防接種を受けても肺炎球菌感染症にかかるの？

小児肺炎球菌ワクチンには、現在の13種類含まれているものと、以前の7種類のものがありますが、肺炎球菌は90種類以上の型がみつかっています。ワクチンに含まれているのは重症化する型や頻度が多い型で、侵襲性肺炎球菌感染症の8割程予防できると考えられており、ワクチン導入後、感染症は減ってきています。しかし、ワクチンに含まれていない型には予防接種の効果は期待できないため、罹ってしまうことがあります。

こども急病電話相談

受診するべきかどうか迷ったら

#8000

PM7:00~PM10:00の毎日

※相談は無料ですが、通話料はご負担いただけます。

ダイヤル回線・IP電話・光電話・銚子市からは

☎043(242)9939